

# 双京構想とは

皇室の弥栄のために、京都にも皇族の方にお住まいいただき、東京との双京を実現する構想です。

## なぜ双京構想を目指すのか

東日本大震災を一つの契機として、東京にあらゆるものが集中しているわが国のあり方が問題とされています。首都直下型地震発生リスクが一層高まる中、万が一の事態に備えて、首都中枢機能のバックアップ体制を早急に構築することが求められており、とりわけ、日本の精神的支柱である皇室の安心・安全の確保について、万全の体制を整えておく必要があります。

また、京都は、千年の間、天皇がお住まいになり、宮中文化が育まれ、今もなお、日本の歴史・文化の中心として多くの人々を魅了し続けています。京都が、日本人の心と文化を体现する

もう一つの首都として、日本の伝統や文化を守り育てることが、バランスのとれた豊かな国づくりに必要です。

## 京都と皇室の歴史

京都は、東京以外に全国で唯一御所を有し、千年の間、天皇がお住まいになり、宮中文化が育まれてきました。明治初頭に天皇が東京に移られてからも、旧皇室典範に即位礼・大嘗祭を京都で行う様に定められ、京都において宮中の儀式が行われていました。戦後の皇室典範の改正に際して、京都で即位礼・大嘗祭を行うという規定は無くなりましたが、天皇后両陛下によるお茶会が開催されるなど、今日においても、皇室と京都の関わりは続いています。

ます。

## 目指すべき姿

皇室の方々がご出席される国際会議や宮中行事の京都での実施などにより、皇室の方々が京都へお越しいただく機会を増やし、1週間、そして1か月間という長期のご滞在へとつなげ、将来的にはお住まいいただくことを目指します。

## 京都における取組

双京構想の実現に向けては、一つ一つ実績を重ね、京都にお住まいいただける環境を整えていくことが大切です。そのため、具体的に以下の取組を進めます。

①「京都の未来を考える懇話会」メンバーをはじめ有識者などによる双京構想の

発信や講演会の開催などあらゆる

機会を捉えて、京都内外で双京構想の実現への機運の醸成を図っていきます。

②景観資産の保全・再生・創造、歴史的風土の保存・活用などにより京都らしい品格を高める取組を推進し、皇室の方々をお迎えするのにふさわし

いまちづくりを進めていきます。

③皇室の方々がご出席される国際会議をはじめとする様々な催しが京都で開催されるよう取組むとともに、「京都の未来を考える懇話会」など各種団体から、政府に対し双京構想の実現に向けた取組を要望していきます。

## 明治以降に京都で実施された皇室行事

◆大正天皇、昭和天皇の即位の礼・大嘗祭

▽即位の礼

天皇が位につかれたことを公に告げられる儀式。皇位の継承があったときに行われる様に定められています。

▽大嘗祭（だいじょうさい）

天皇がご即位の後、大嘗宮の悠紀殿（ゆきでん）・主基殿（すきでん）において初めて新穀を皇祖・天神地祇に供奉され、自らも召し上がり、国家・国

民のためにその安寧と五穀豊穰などを感謝し祈念される儀式。

◆お茶会

平成2年、即位礼及び大嘗祭の後、天皇后両陛下の京都への行幸啓の際、古来皇室にご縁故の深い近畿地方の各界の代表等をお招きしてお茶会が開催されました。また、平成11年、21年にも、ご即位10年、20年の記念行事として京都にてお茶会が行われました。そのほか、昭和56年に京都でお茶会が行われています。

「双京構想」は、京都の行政、

産業、大学、文化・観光、メディアのトップが、30年後の京都の「ありたい姿」を自由に語り合い、オール京都で、府民、市民が一緒に目指したいと思う未来像を描くことを目的に、平成22年4月に設置された「京都の未来を考える懇話会」の議論の中で発表したものです。

日本の大切な皇室の弥栄、そして、わが国の伝統を守り、文化を発展させるため、皇族の方々に京都にもお住まいいただき、政治・経済の首都である「東京」と、歴史・文化の首都である「京都」の双方で、わが国の都としての機能を果たし、日本創生を実現させることを目指すものです。

●「ご即位・立太子・成年に関する用語」(宮内庁) (<http://www.kunaicho.go.jp/word/word-sokui.html>) を加工して作成  
●「ご即位・大礼の主な儀式・行事」(宮内庁) (<http://www.kunaicho.go.jp/20years/20kiroku/sokui-01.html>)  
●「地方へのお出まし(都道府県別)」(宮内庁) (<http://www.kunaicho.go.jp/about/gokomu/odemashi/rocal/rocaldata-02.html>) を加工して作成